

終端形高周波電力計とは送信機の整合、調整、試験を行う時、実際のアンテナの代りに擬似負荷を用いますが、この擬似負荷に指示回路を設けて送信機の出力を測定出来る様にした装置です。又、この装置を用いて機器の調整、試験などを行うと、不要な電波を発射することも無く、完全に調整、試験が出来ます。

性能・特徴

- ① 今迄にないワイドな測定周波数
- ② 周波数補正、切換の必要がない
- ③ 大電力(1KW)迄測定出来る
- ④ KW測定時でも通常と同軸ケーブルでOK
- ⑤ 二重安全装置付
- ⑥ 1.5級バンドメーター
- ⑦ N形接栓使用

規 格

周波数範囲：1.8～500MHz

測定電力：1000W(20W、200W切換)

インピーダンス：50Ω

電圧定在波比：1.2以内

指示誤差：フルスケール±10%以内

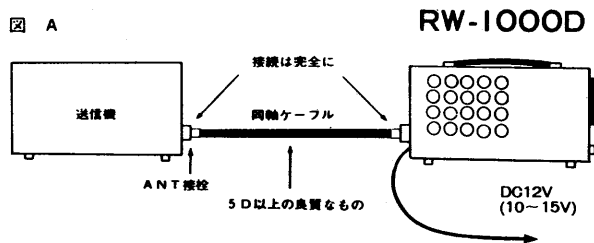
接栓方式：N型

寸 法：140×190×295mm

測定方法

- ① DCコード赤黒を電源に接続しCHECK SWを押しランプが点灯するかTestして下さい。
(電源はDC12V(10～15V)を接続して下さい)
- ② 図Aの様には送信機空中線出力接栓と電力計の接栓を接続し送信電力に応じた電力に電力計のスイッチをセットし送信機を動作させ、電力計の目盛を読み取ります。
- ③ 測定中にオイルタンク内部温度が60℃を越えた時は表示ランプが点灯します。その時はすみやかに測定を中止し表示ランプが消えたら再測定出来ます。温度が下る迄待って下さい。

図 A



注意事項

- ① RW-1000D は出来るだけ水平の状態で使用して下さい。
- ② 800W 以上の電力を測定する時は (温度上昇により表示ランプが点灯しますが) 連続使用を一応 3 分間迄として下さい。
- ③ 測定に際し送信出力の波形があまりにも悪い場合はメーター指示に誤差を生じます。
- ④ VHF～UHF に於いては、ケーブルと接栓との工作が悪いと大きな反射が生じ指示に大きな誤差を生じることが有り注意を要します。
- ⑤ 送信機、電力計との接続接栓は完全に奥迄差込む様にし、しっかりしめて下さい。

■本機は無線技士等の無線従事者が、その資格により責任をもって使用する機器です。また改良等のため、予告なく仕様を変更することがあります。